

## 仏法のうえには

墨俣町 近藤 龍譲

蓮如上人は、「仏法のうえには、毎事に付き、空おそろしき事と存じ候うべく候う」と述べておられます、これは仏法を聞く身となった上は、凡夫である私がすることは一つ一つが恐ろしいことなのだと心得なさいということです。

仏法を聞くことが、どんなことをも軽んじない姿勢に結びつくことを語っておられるのです。ここのところの世間では、あおり運転によって人に危害を与えたり、我が子であるにもかかわらず、旦那からのDVに怯え、虐待を繰り返して死なせてしまうなど、まったく自己のことばかりを考えたような事件が多く散見されます。

ですが、それは他人事なのではなく、いつ私たちもそちら側になるかわからない身なのだとということです。まさに縁が整えばどんなことでもしてしまう罪深き我々の明日の姿なのです。

そんな罪深い我々がすることは一つ一つが恐ろしいことなのである、それをよく自覚しなさいということを通して、蓮如上人はこの言葉を通して、私たちに促しておられます。

そして、それを自覚させてくれるのが仏法であるとおっしゃっています。

私たちにとって、最も身近な仏法は「南無阿弥陀仏」の名号です。

様々なお聖教や、先生方のお話を聴聞することも仏法を知る大事な手掛かりかもしれません。

しかし、まずは「南無阿弥陀仏」という念仏を通して我が身を知らされていくことが、親鸞聖人や蓮如上人が我々に示してくださった教えなのです。

念仏を通して、縁があればどんなことでもしてしまう恐ろしい我が身の姿と向き合う、それが仏法を聞く身となったうえの生き方になっていくのではないのでしょうか。